

〔I〕 次の史料を読み、以下の問いに答えよ。

日本史探究 (旧日本史B)

「著作権の関係上、文章は掲載しておりません。」

問1 この史料に記された白村江の戦いが発生した理由は、朝鮮半島にあった新羅、高句麗、百済の戦いにも関連している。このことについて次の問(1)～(2)に答えよ。

(1) 朝鮮半島の戦いで唐(当時の中国)と手を組んだ国はどの国か。その国名を漢字で答えよ。

(2) また唐と(1)の国の連合軍がある国を滅ぼしたことが、倭(当時の日本)が参戦する理由になった。その国はどれか。その国名を漢字で答えよ。

問2 水城や朝鮮式山城の築城などにも活躍したほか、大陸や朝鮮半島の文化を紹介する窓口となった、日本に移住した朝鮮人をなんと呼ぶか。漢字3文字で答えよ。

問3 傍線部(A)の筑紫国について、下記の問(1)と(2)に答えよ。

- (1) 筑紫国は現在の何県に当たるか。県名を漢字で答えよ。
 (2) 筑紫国には朝廷の九州統治の政治拠点が置かれ、後には外交の窓口としても機能した。それは何か。下記の(ア)～(エ)から選んで記せ。
 (ア) 太宰府 (イ) 鎮守府 (ウ) 鎮台 (エ) 近江大津宮

問4 傍線部(B)の説明としてふさわしいものを次の(ア)～(エ)の中から選べ。

- (ア) 「さきもり」と呼び、各地で徴兵した兵士を北九州の防備のために赴かせた。
 (イ) 「くにもり」と呼び、各地で徴兵した兵士を北九州の防備のために赴かせた。
 (ウ) 「さきもり」と呼び、各地で徴兵した兵士を蝦夷対策の拠点の防備のために赴かせた。
 (エ) 「くにもり」と呼び、各地で徴兵した兵士を蝦夷対策の拠点の防備のために赴かせた。

問5 白村江の戦いの敗北を受け、朝廷はどのような事態に備え、どのような対策をとったのか。この史料に基づいて70文字程度で回答せよ。

〔Ⅱ〕次の文を読み、以下の問いに答えよ。

室町時代の文化は、武家勢力の伸張と民衆の台頭を軸にして展開した。その性格は、伝統的な公家文化に基礎をおいた新興の武家文化に、禅宗を中心とする中国文化の影響が加わったものである。この新しい文化は、3代将軍・足利義満の時代にもっとも栄え、(①)文化と呼ばれている。

足利義満は、1397年(応永4)、京都に別荘をつくり、その一部に金閣を建てた。これは、公家の(②)造と禅宗寺院の唐様様式を折衷した豪華なもので、この時代の気風を

よく象徴している。武家の禅宗に対する尊重の精神は、この時代に特に盛んになり、臨濟宗は足利尊氏が^a夢窓疎石に帰依して以来、室町幕府の厚い保護を受けて栄えた。足利義満は、宋の官寺の制度にならって(③)山の制度を整えた。

絵画では、鎌倉時代の末ごろから禅僧によって宋・元の画風が伝えられて(④)画がおこった。この時代に入って、明兆・如拙・周文らの名手があらわれて、その基礎を築いた。

^b能楽は、室町時代を代表する芸能であり、特に猿楽能については、^c観阿弥(⑤)父子が、足利義満の保護のもと、幽玄な芸術として大成した。また、能の合間に演じられる(⑥)は、民衆の日常の会話からなる写実的な喜劇であり、庶民の生活をとりあげたものが多く、なかには大名や僧侶を風刺したのもあった。

8代将軍・足利義政は、応仁の乱の直後、京都に山荘を築き、そこに銀閣を建てて風流な生活を送った。この時代の文化は(⑦)文化と呼ばれている。

この時代の前後には文化の庶民化が進み、民間の説話などに取材した(⑧)草子があらわれて、広く愛読された。

また、文化の地方への普及が進み、特に応仁の乱後、公家や僧侶の地方移住により、その傾向が強まった。学問の面では、関東の武将である^d上杉愷実は、下野に足利学校を再興し、肥後の菊池氏、薩摩の島津氏は、(⑨)を招いて朱子学を講義させた。

^e南村梅軒は土佐で朱子学を講じて、南学の祖となった。そのほか、戦国大名の大内氏は、城下町の(⑩)に多くの公家や文化人を迎え入れた。

問1 (①)～(⑩)に入る適切な語句を答えよ。

問2 下線部a～下線部eについて読みをひらがなで答えよ。

〔Ⅲ〕次の文を読み、以下の問いに答えよ。

徳川家康は、三河国の小大名からおこり、豊臣秀吉が小田原の戦国大名・北条氏を滅ぼしたあと、関東に所領を与えられ、江戸城を居城として着々と実力を蓄えていった。

豊臣秀吉の死後は、後継者である豊臣秀頼が幼少ということもあり、家康は五大老の筆頭として、その政治的地位を高めた。これを不満とする五奉行の一人である石田三成は家康と対立して、1600年(慶長5)、(①) 国の関ヶ原で家康方の軍勢と戦ったが敗北し、ここに家康の覇権が確立した。

その後、1603年(慶長8)、家康は(②) 大將軍に任ぜられて江戸幕府を開いた。江戸幕府の組織は、幕府政治が展開されていく過程で、制度や法令が次第に整備され、2代將軍・徳川(③) を経て、3代將軍・徳川(④) の頃までにはほぼ完成された。

幕府機構の中で最高の職は(⑤) であったが、それは臨時のもので、通常は(⑥) が政務の中心となり、重要政務を統轄した。若年寄は將軍の直臣である旗本・(⑦) 人の統轄と江戸城中の事務をつかさどった。一般行政では、三奉行として寺社奉行・江戸町奉行・(⑧) 奉行が置かれた。大目付は老中に属して大名を監察した。

地方の職制では、京都所司代に朝廷の監察と西国大名の監視にあたらせた。また、a京都、b大坂、c堺、d長崎、e日光、佐渡などの重要な直轄都市には町奉行や遠国奉行を置き、奉行支配地以外の幕府の直轄領には(⑨) や代官を配置した。

江戸時代には行政権と司法権が分離しておらず、役人は管轄する行政とともに裁判もおこなった。二つ以上の管轄範囲にまたがる事件や、政治上の重要事件は(⑩) 所で裁決した。

問1 (①) ～ (⑩) に入る適切な語句を答えよ。

問2 下線部 a～下線部 d について、それぞれの所在する旧国名を答えよ。

問3 下線部 e について読みをひらがなで答えよ。

[IV] 次の文を読み、以下の問いに答えよ。

(A) 1914年(大正3)、(①) が起こると、ヨーロッパ各国は国力を戦争に費やし、日本は代わってヨーロッパが必要とする民需品や軍需品、植民地の維持に必要な物資を

生産して輸出した。このため(①) の間中、日本は非常な好景気に恵まれ、債務国から債権国となった。しかし、(①) が終結するとヨーロッパ諸国の復興が進み、ヨーロッパの経済が再び国際競争力を取り戻すと日本製品は購入されなくなった。このため日本はたちまち生産能力が需要を上回る過剰生産の状態となり、日本企業は大きな赤字を抱える不況に陥った。この不況を(②) と呼ぶ。

政府は積極的な経済保護を行い、その財源は(③) による紙幣の増発によって賄われた。最後の貸し手として(③) が増発した紙幣を各銀行に緊急融資し、それをもとに各銀行が企業に融資する、という方法だった。しかし、(B) 1923年(大正12)に関東を中心とする大地震が発生し、多くの企業が手形の決済が出来ず、資金不足に陥った。再び政府は(③) に特別融資を行わせて、事態の収束を図った。

しかし1927年(昭和2)3月になると、今度はその震災時の未決済手形を多く抱える一部銀行の経営悪化が伝えられ、(C) 銀行が潰れる前に預金を引き出そうとする預金者が銀行に押しかける騒ぎとなった。これに(①) の好景気で急成長した鈴木商店の倒産が加わり、鈴木商店に巨額の融資を行っていた台湾銀行も経営危機に陥った。当時の第1次若槻礼次郎内閣は緊急勅令によって台湾銀行を救済しようとしたが枢密院に反対され、内閣総辞職となった。銀行の救済が遅れたために恐慌は本格化し、多くの銀行が破綻に追い込まれ、中小銀行の信用が失墜する事態となった。この恐慌のことを(④) と呼ぶ。その後、成立した立憲政友会を与党とする田中義一内閣は(⑤) を発令し、再び(③) による非常時貸付を行わせて事態の収束を図った。

問1 (①) ～ (⑤) に当てはまる言葉を下記の語群より選んで漢字で記せ。

日本銀行 朝鮮銀行 大分銀行 第一次世界大戦 日露戦争 第二次世界大戦
金融恐慌 戦後恐慌 世界恐慌 モラトリアム セクショナリズム グローバリズム

問2 下線部(A)の説明として正しくないものを次の(ア)～(エ)の中から選んで記号で記せ。

(ア)ヨーロッパの各国が戦争に集中して植民地向けの染料や薬品、肥料、機械の輸出ができなくなり、日本が代わりに商品を輸出するようになり日本の工業が発達した。

- (イ) ヨーロッパが戦争のために多くの輸送船を必要とし、日本の造船会社にも輸送船の建造を注文するようになり、「船成金」と呼ばれる造船業で財を成す富豪が現れた。
- (ウ) それまで日本はヨーロッパやアメリカに対する借金や商品の輸入の決済で苦しんでいたが、第一次世界大戦による好景気のために、逆にヨーロッパやアジア向けの輸出が増えたことで国際収支が黒字化して余裕ができた。
- (エ) 戦争のために日本の都市や工場地帯が攻撃を受け、著しい生産能力と生活水準の低下が見られた。

問3 下線部(B)の大地震の名称として正しいものを次の(ア)～(エ)の中から選んで記号で記せ。

- (ア) 関東大震災 (イ) 東日本大震災 (ウ) 熊本地震 (エ) 慶長地震

問4 下線部(C)のような騒ぎのことをなんと呼ぶか。ふさわしいものを下記の(ア)～(エ)の中から選んで記号で記せ。

- (ア) 米騒動 (イ) とりつけ騒ぎ (ウ) 労働争議 (エ) 小作争議

問5 上記の一連の恐慌の後、銀行と預金の預け先に大きな変化が見られるようになった。それを示すのが下の日本国内に存在する銀行数の年ごとの増減と、預金総額に占める5大銀行*の割合の増減を年ごとに表した表である。一連の恐慌の後、金融市場にはどのような変化があったと言えるだろうか。「中小銀行の倒産」「信用」「5大銀行の金融支配」という3つのキーワードを使って、100文字以内で説明せよ。

*5大銀行とは、三井、三菱、住友、安田、第一の大銀行のことをいう。

「著作権の関係上、
表は掲載しておりません。」

平井雅行、横田冬彦ほか15名著
『日本史探究』実教出版株式会社、
令和6年、297頁。